

---

**Japanese Unexamined Application,  
First Publication No. S52-70899  
November 21, 1975**

**1. Title of the Invention: Floating body having a submerged plumb plate**

**2. Inventors: Masaaki NAMIMATSU**

**3. Applicant: Ishikawajima-Harima Heavy Industries, KK**

**Agent:**

---

Description

**1. Title of the Invention**

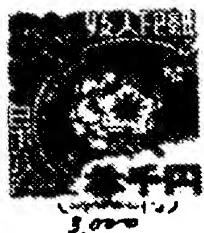
Floating body having a submerged plumb plate

.....

**3. Detailed Description of the Invention**

.....

In FIG. 1 and FIG. 2, reference numeral 1 denotes a floating body having a shallow water line, submerged plumb plates 3 and 3 are provided so as to protrude downward from the left and right ends of the bottom portion 2, and both the front and back ends of the bottom portion 2 are provided with submerged plumb plates. Although not illustrated, these submerged plumb plates 3 and 3 may naturally be suitably provided by adding supporting pillars and aggregates for reinforcement.



(2) 練記記名ナシ  
実用新案登録願

昭和50年11月21日

特許庁長官 森英雄殿

1. 考案の名称 水中防波板を有する舟体
2. 考案者  
住所 東京千代田区新中原町1番  
氏名 石川島港湾重工業株式会社 技術研究部内  
歩松正助
3. 実用新案登録出願人  
住所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号  
氏名 (009) 石川島港湾重工業株式会社  
代表取締役 真藤恒
4. 代理人  
住所 東京都文京区春日2丁目19番11号  
氏名 (4144) 井坤士 和 正義
5. 添付書類の目録  

1. 申細書	1通
2. 図面	1通
3. 領書副本	1通
4. 委任状	1通

50-158009<sup>5</sup>

## 明細書

### 1 考案の名称

水中防波板を有する浮体

### 2 実験案登録申請の図

浮体底部の対端縁にそれ隨流板を下方に向、突出して設計記述部 波の浪による衝激を減少するよに止を避と微する水中防波板有する浮体。

### 3 考案詳細説明

本考案はモーブ等 機械水船、ボート等の海洋機物及び上水浮に遊させ送れる構造物等 機器体の中防波板を用ゐるのである。

一般に上部に底積みを必要しその割合に大き揚水量を要必としなれば海音構造物及び水導管させ難て送れる構造物等の体は乾水機となるので上移水動中保や船中に波浪の影響部に受け難や、ラノットを掛むがと乾水を増し加る軸部の強度を強くする機板側壁を増すな

どの方法を施すことがあるが、前者は移動時、  
水の抵抗増強をもたらし、後者は材料費を高め  
ることになつて好ましくない。

本考案は、上述の欠点に鑑みてなされたもの  
で、吃水の浅い浮体の底部に波浪のもぐり込み  
による衝撃を減少しうる構成を有するものであ  
る。

以下、図面について本考案の実施例を説明す  
る。

\*1図、\*2図において、1は吃水の浅い浮  
体で、その底部2の左右両端縁より下方向にそ  
れぞれ水中防波板3、3が突出して設けられ。  
底部2の前後両端は水中防波板を設けてない。  
これら水中防波板3、3には図示してないが、  
補強のための支柱や骨材を適当に附着して設け  
ることは勿論である。

以上のような構成の本考案において、浮体1  
の吃水より大きな波浪4が、例えは舷方向から  
押し寄せてても波浪の谷は防波板3に遮断されて  
その余波は鎮静されるので、底部2は波浪によ

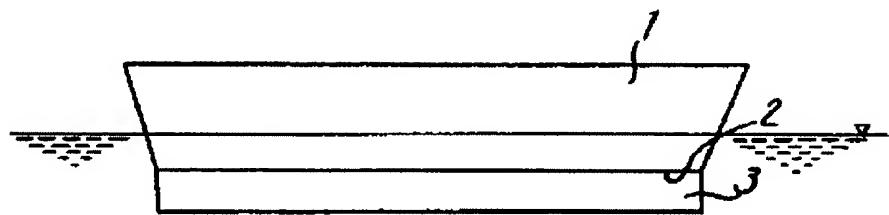
る大きさを嵩高かれることができるとともに、浮体の長手の前後端板は水中防波板を設けてないので航行きする水抵抗の増加を最小限低減でき、安定性を向上することに輸送コストを低減するなどと考へた等の利点を有するものである。

なお上述の実施例は浮体の両側端縁に水中防波板を下向きに突出させて設けたが、保留在おく浮体例は、オ3、図樹4示す如く、両側端縁と前後端縁とともに水中防波板を設けて波浪が浮体の底部へその周囲よりもぐり込むのを防止するようにすることもできる。

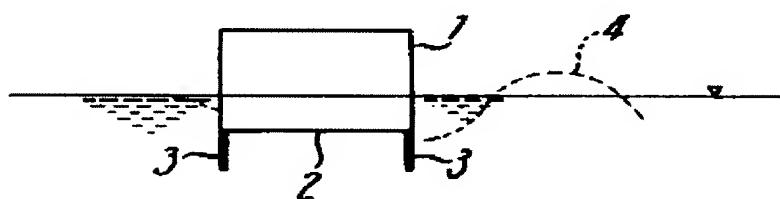
#### 4. 図面の簡単な説明

オ1図は本考案の実施例の概略側面図、オ2図は同実施例の概略正面図、オ3図は別の実施例の概略側面図、オ4図は同実施例の概略正面図であつて、図中の符号1……浮体、2……同浮体底部、3……水中防波板、△……静水面をそれぞれ示す。

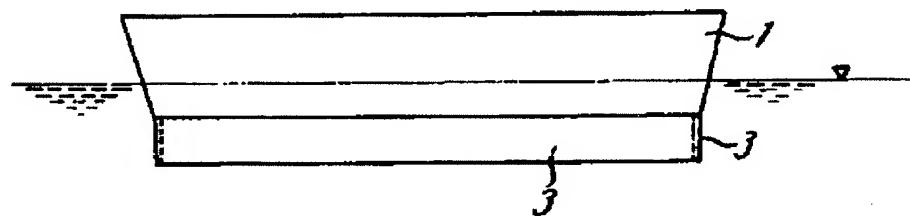
第 1 図



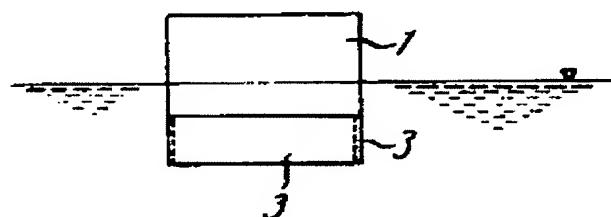
第 2 図



第 3 図



第 4 図



70899

石川県新潟工業株式会社  
代理人 洲 隆 正